

17.
(walk-11)

鉄のモニュメント

長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市

minobg00.htm 2007.9.10. by Mutsu Nakanishi



美濃橋 岐阜県美濃市の長良川にかかる人・自転車専用の吊り橋。1916年(大正5年)8月完成
 主塔は鉄筋コンクリート製。床板は木製。橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m
 橋梁形式：単径間補剛吊橋 所在地：岐阜県美濃市上有知～美濃市前野
 現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定

長良川の中流 北陸と東海を結ぶ交通の要衝として江戸～明治時代に隆盛を極めた美濃市

市街地は「うだつ」のあがる美しい町並 国の重要伝統的建築物群保存地区

市街地の西側 長良川 河畔は今も古い灯台が残る美濃「上有知」の湊

その河畔に当時の技術の粋を集めた日本最古の鉄製近代つり橋「美濃橋」(1915年大正5年完工)がかかっている。

主塔は鉄筋コンクリート製。

床板は木製。橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m 橋梁形式：単径間補剛吊橋

所在地：岐阜県美濃市上有知～美濃市前野

現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定されている。

現在は往時の役割を終え、人・自転車専用の吊り橋となっていて、山の緑をバックに長良川にかかる赤い橋と灯台が素晴らしい景観を作っています。



岐阜から長良川沿いに北東へ約30分ほどのところに「美濃紙」などの物産の集散地として江戸・明治に栄えた古い町がある。東海・美濃から白山を越えて北陸・福井へ抜ける古い街道筋 美濃平野が北の山岳地帯にかかる入口の位置にあり、この奥に「郡上おどり」で有名な郡上八幡がある。

美濃と北陸を結ぶ東海地方横断鉄道建設が悲願で 東海側 日本海側から越美南線・越美南線が延びているが、どちらから、白山を越えて結ぶことが出来ず、越美南線が、第三セクター長良川鉄道となって、美濃太田から 「刃物の関」そして「美濃」・「郡上八幡」を通過して、美濃白鳥を結んでいる。

今はこの川沿いを東海・北陸道が美濃白鳥から合掌造りの白川郷を抜けて富山へ結んでいる。
 何度か高速道路を車では越えた道筋ではあるが、一度は鉄道をつないで越えたい道筋。

予備に一枚残していた今年の「夏の青春 18 きっぷ」の期限が、9月10日で切れる。
 さて、何処へ行こうか・・・。

「ちょうど2年ほど不通になっていた高山線も9月6日に開通したところだし、越美南線・北線もつなぎたい。
 東海から北陸へ 一日で 越えられないか・・・。」

調べてみましたが、神戸から 鈍行乗り継ぎでのプランでは難しい。

ふっと 頭に浮かんだのは、友人が以前に奨めてくれた「古い家並みが残る美濃の街」。

「刃物の町 関」もいつも
 飛ばしている街。ここにも立
 ち寄って・・・と

美濃の国の重要伝統建物群
 保存地区の家並と共に、長良
 川に架かる現存する日本最
 古の鉄製近代吊橋「美濃橋」
 が今も現役で働いているの
 を知りました。

町並み そっちのけで、鉄の
 モニュメント「重要文化財
 現存する最古の近代吊橋『美
 濃橋』」を見てきました。



1. 国の重要文化財 現存する最古の近代吊橋長良川に架かる「美濃橋」

山から美濃平野に出てきた長良川が美濃からゆったりと平野部を流れ下る。

街には川湊が開かれ、北陸と東海の中継地として、水運・陸運を利用して物産が集り、街が栄える。

町の繁栄と富をバックに大正5年 当時の先端技術を集め、湊の傍に吊橋がかけられ、川を渡って、北陸への街道が続く。
 今は老朽化が進んで、人・自転車専用の吊橋となり、直ぐ上に新美濃橋がかかり、国道が抜けてゆく。

大動脈としての活動を終え 静かな周りの自然に溶け込んだ素晴らしい景観を作り出している。

橋のルーツを知らないとなんでもない観光橋かと思ってしまうような橋ですが、 川面を眺めながらの橋 橋を渡って眺める景色 この景観になくはならぬ橋であり、背後の伝統的建物群の町並みがこの橋で一層浮かび上がって、見えてくる。

鉄のモニュメント 長良川にかかる現存最古の近代吊橋「美濃橋」(重要文化財)

2007.3.16. 美濃市 上矢知

長良川の中流 越中と美濃を結ぶ交通の要衝としては江戸～明治時代に隆盛を極めた美濃市
 市街地は「みだつ」のあがる美しい町並 国の重要伝統的建造物群保存地区 河津はゆめ古い灯台が残る美濃「上矢知」の湊
 その河津に当時の技術の粋を集めた日本最古の鉄製近代つり橋「美濃橋」(1915年大正5年完工)がかかる。
 山の縁をバックに長良川にかかる赤い橋と灯台が素晴らしい景観を作っている



美濃橋 岐阜県美濃市の長良川にかかる人・自転車専用の吊り橋。1916年(大正5年)8月完成
 主塔は鉄筋コンクリート製。床板は木製。 橋長：113.0m 支間：116.0m 幅員：3.1m
 橋梁形式：単塔間橋式吊橋 所在地：岐阜県美濃市上矢知～美濃市河野
 現存する最古の近代吊橋で、2003年(平成15年)に国の重要文化財に指定

2. 「うだつの上がる街 美濃」 国指定 重要伝統的建築物群保存地区

美濃の街には「うだつの上がる街 美濃」として 今売り出し中の古い家並みが そっくりそのまま残っていました。伝統的家並みというと、どこも外見の家並みはあっても 中は観光客相手のみやげ物屋かパビリオンというのが多いのですが、交通の便がよくないためか、まだ 観光客に押し流されず、まだ そっくり生活空間のままで残っていました。もともと ほとんど 概観が化粧直しして 家並みとして整備されていましたが・・・。



重要伝統的建築物群保存地区
「うだつ」のあがる町並み「美濃」
「うだつ」とは、屋根の両端を一段高くして火災の類焼を防ぐために造られた防火壁のこと
交通の要衝地であった美濃
各地から美濃和紙などいろいろな物資が集り、長良川畔の上有知渡から船で岐阜・桑名などへと運ばれた。
町には次第に和紙問屋やいろいろな商売を営むものが増え、商家町として栄えた。
町並みには、江戸～明治時代にかけて造られた商家が軒を連ね、古いたたずまいを見せている。

「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.



「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.



「うだつ」のあがる町並み「美濃」重要伝統的建築物群保存地区 2007.9.10.

3. 「縄文人も カミソリをつかっていた????」 関市 「フェザー ミュージアム」で

美濃の一つ手前の街「関」。鎌倉時代の末 この地で始まった刀鍛冶の伝統が今に続く渦の燕・三条と並ぶ「刃物の街」。関鍛冶伝承館・刃物会館があり、素晴らしい関の刃物文化・刃物群が展示されていましたが、私の興味を引いたのは「フェザーカミソリのミュージアム」

石器時代から 現在まで「髭剃り・剃刀の歴史」そして多種多様な「フェザーカミソリ」が展示されていました。

「縄文人も ひげを剃るといふか きっていたのですね」

ひげは手入れしないと 微生物の温床になったり、ひげ掴まれて倒されるなどで 古今東西問わず剃ったり、手入れしてい

たという。そういえば、描かれる「縄文人の顔」には ひげがない。木片の両側に黒曜石などの刃が埋め込まれたヒゲソリが展示されていました。鋼に変わっても 今のヒゲソリと同じ構造。

また、現在のあの薄いフェザーのカミソリ。 本体と刃は一体だと思っていましたが、日本刀と同じく 焼き入れもされ、現在の先端技術 蒸着で両刃の刃がついているのには、ビックリしました。

このカミソリの刃も 「鉄のモニュメント」です。



岐阜県関市フェザーミュージアムで

石器時代のひげ剃り

約2万年前の外国の洞窟壁画には、ヒゲのある男性と無い男性の両方の姿が描かれています。つまり、この頃からヒゲを剃っていたということになります。この頃は、容姿を整えるためではなく、飲食に邪魔だった、寄生虫を防いだ、お互いの表情を見分けるためなどの理由から、あるいは当時の寿命を考えると、ヒゲがあることは死に近づいたことを意味するため、心理的な面で剃っていたとも考えられます。

石器時代のひげ剃りを実証
—ニューギニア高地人—

ニューギニア・オプノー山脈に住むワギンバ部族の人々は、昭和30年代まで石器時代そのままの生活を送っていました。彼らによって、それまで仮説でしかなかった石器時代のヒゲ剃りの方法が実証されました。それは、黒曜石の一種である縞石を用いて、ヒゲをつまむように斬るもので、石刃のカミソリは指の中に隠れてしまうほど小さなものです。

我が国の石器時代は、今からおよそ1万2千年前から始まる石器時代(主に縄文文化)と、それ以前の旧石器時代(先石器文化)に分けられる。刃物としての石器では、①切る、②削る、③突くといった機能をもちものが圧倒的に多い。中でも、ヤジリ(石器)は、新石器時代の狩猟具における代表的な例で、石矢の発達によるものである。

では、それ以前の狩猟具は、どうであろうか。私達は、昭和30年、加茂郡富加町宇高地の通称黒山と呼ばれる小高い丘陵の畑地で、奇妙な石器を採集した。それは図1のような縦割削の目立つ円筒状を呈したもので、当初はいかなる石器か見当もつかなかった。やがて紅村弘先生により、縞石刃核と認定され、奇しくもこれが、眼下における旧石器第一号となったのである。



さて、この縞石刃核は、高さ2センチ前後の小さなもので、真18の矢印方向から2・3に示すカミソリ刃のような縞石刃を削ぎ取った残核である。したがって、実際に利器として使用されるものは、このカミソリの刃のみである。これを細長い木の側面に溝を彫って「縞石」しさらにタールなどによって固定させた版で、取り替え自在の正に利便カミソリの発想である。主に槍先として使用されていてシベリアやヤンマータクなどでは、4のような縞石刃が、完全な形で発見されている。

緑の山々を背景に古い商家の家並が続く街を悠々と長良川が流れ下る。
 川には 鮎の釣り人が点々と続き、真っ赤な吊橋 その傍には 古い川湊の灯台
 ゆったりとした静かな時間が経過
 もう 夏もおわり。
 土手に座って そんなことを感じていました。

2007.9.10. 岐阜県美濃市 長良川の土手で
 Mutsu Nakanishi

